

平成24年北栄町議会議員研修報告書

1	日 時	平成24年7月18日(水)～20日(金)	
2	調 査 地	滋賀県湖南市 ・ 長野県飯田市	
3	調 査 内 容	(内 容)	(場 所)
		(1)障がい者雇用の促進について	カルビー・イートーク(株)
		(2)発達支援システムについて	湖南市健康福祉部 社会福祉課
		(3)グリーンツーリズムの取り組みについて	南信州観光公社
		(4)メガソーラー施設見学	メガソーラーいいだ
		(4)まちづくりについて	(株)飯田まちづくりカンパニー
4	調査結果 又は概要 (意見・感想)	(1)障がい者雇用の促進について	
		<p>重度障がい者多数雇用事業所として、2010年7月設立。親会社の雇用率に寄与することはもちろん、市の障がい者就労情報センターと連携・協力し、障がい者就労の一翼を担っている。本町の場合、雇用の受け皿となる事業所への支援も必要だが、今後は、福祉政策だけでなく就労支援策を講じることが必要である。</p>	
		(2)発達支援システムについて	
		<p>支援の必要な人に対し、乳幼児期から就労期まで、教育・福祉・保健・就労・医療など横の連携による支援と、個別の計画による縦の連携による支援を提供するシステムとして平成14年にスタートした。発達支援室は個々のニーズに応じ長期にわたって一貫した支援をする部署である。また、乳幼児から小中学校における特別支援教育はもとより、高校への引き継ぎ、大学進学と就労支援も行っている。健常者でも就職が難しい時代に、障がいを持つ人の就労は厳しい状況の中、平成21年障害者の働く機会を拡大する目的で「障がい者就労情報センター」を設立。事業所との橋渡し役として就労支援をしている。特に学校現場においては、特別支援教育が充実すると不登校児童・生徒は減少すること。本町でも室の設置を含め、さらなる充実が求められる。</p>	

4 調査結果 又は概要 (意見・感想)	<p>(3)グリーンツーリズムの取り組みについて</p> <p>市町村と地元企業・団体の出資により設立された第3セクターの株式会社。補助金はなく設立後3年間は赤字だったが、2005年から単年度黒字。現在の累積赤字は400百万円。公社の主な業務は、体験プログラム・旅行の企画開発・受け入れ指導、観光案内所の運営、土産品の製造・販売、イベントの企画・実施、損害保険代理業など幅広い。体験プログラムでは、農業体験が5割強を占め、その多くは学生団体であり、ほとんどは農家民泊を体験する。受け入れに際して、下見案内、昼食や弁当の手配、送迎バス、各種体験プログラムの手配・調整、事故。緊急事態への対処、精算業務などたきにわたる。民間主導で成功した飯田市のように、行政の協力・支援は必要だが、観光協会やJAを中心とした組織が、専門スタッフの元、取り組んでいかなければと感じた。</p>
	<p>(4)メガソーラー施設見学</p> <p>出力1,000kW(1メガ) 年間発電量100万kWh(一般家庭300世帯分) 敷地面積1,8万㎡で平成23年1月運用開始。安全のため、周囲をフェンスで囲っており、発電所の中に入ることはできないが、中の様子は見える。無人ではあるが、テレビモニターとパネルで、発電の仕組みや市の環境施策について学習できるよう、案内設備が設置してある。また、ミニ太陽光パネルを自分で太陽の方角に向けて、発電すれば鐘が鳴る仕掛けも施され、子どもも楽しめる工夫がされている。本町の高千穂にできる太陽光発電所にもこのような施設や設備ができれば、子どもから大人まで多くの見学者が訪れるようになるのではないかと感じた。</p>
	<p>(5)まちづくりについて</p> <p>街なか居住を基本コンセプトに、一戸建て住宅ではなく分譲マンション方式で、平成10年マンション建設が始まり、まちづくりカンパニー設立につながる。主な事業は、市街地再開発としての分譲マンション建設とテナント賃貸事業であり、まちづくりを完全に事業化している。人口10万を越えるまちと同様のことはできない。その他にも様々な事業を展開しているなかで、参考にしたい事業として、循環乗り合いバスがある。駅と庁舎を起点とし、途中には人形劇「三国志」で有名な川本喜八郎人形美術館や、りんご並木の三連蔵を回る11人乗りの電気自動車である。由良駅とふるさと館を起点に、由良宿のまちなかをめぐる移動手段としては似合うと感じた。個人やカップルなどには電動アシストレンタサイクルやペロタクシー、グループには電気自動車でコナンの町をめぐるだけでなく、想像しただけで楽しかった。</p>
	<p>(6)まとめ</p>